

# 関西学院大学 研究成果報告

2022年 5 月 15 日

関西学院 院長殿

所属：人間福祉学部  
職名：教授  
氏名：大和三重

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国： 韓国 ） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国： ） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間 <input type="checkbox"/> 関西学院外留学（滞在国： ）
研究課題	介護保険制度の日韓比較および介護人材確保に関する研究
研究実施場所	ソウル大学日本研究所
研究期間	2021年 4 月 23 日 ～ 2022 年 3 月 25 日（ 11 ヶ月）

## ◆ 研究成果概要 （2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

韓国では日本と同様に少子高齢化が進んでいるため、介護問題は将来重大な社会問題となることを予想して留学したが、少子高齢化の進展は予想以上に急速であることがわかった。しかし、韓国社会では一部研究者を除いては近い将来の深刻な高齢化についての危機意識は共有されていないようであった。研究計画では韓国の長期療養制度と日本の介護保険制度の比較を行う予定であったが、コロナ禍のため関連機関や施設への訪問ができず、研究者とも対面は数度に限られ、ほとんどがオンラインによる交流のみであった。したがって、インタビューや調査を行うことはできず文献によるレビューにとどまらざるを得なかった。

もう一つの計画であった外国人介護士については、韓国保健社会研究院のキム・ユフィ博士と研究交流を通じて互いの国での外国人介護士の状況について情報共有し議論を交わすことができた。その結果、2022年3月4日に、関西学院大学韓国学研究中心主催の研究会を開催し、“A Study of Foreign Care Workers in South Korea”と題してキム・ユフィ博士に講演していただき、その後参加者との討論を通じて今後の共同研究に向けての準備ができた。

具体的な研究成果としては、韓国と日本の外国人介護士の受入れについて共通する点と異なる点が明確になったことである。共通する点としては、どちらの国においても介護人材の不足が外国人介護士受け入れの要因となっていること、必ずしも有資格である必要は

ないこと、介護職の賃金が低く社会的な評価も低いこと等である。一方、両国で異なる点として、日本の外国人介護士受け入れにおいて最も重要な問題は言語の壁であるのに対し、韓国の外国人介護士の多くは中国から来た朝鮮族の人たちであり同胞である。したがって言語の問題は基本的にはないはずであるが、朝鮮語が通じるとしても言語と文化の違いが問題とされている。その背景には、中国から来た同胞に対する差別がある。加えて介護職への偏見により外国人介護士は二重の差別の対象となっている。日本でも介護労働者は全体の労働者の平均と比べると低賃金であることや社会的評価が低いことは共通しているが、その程度がかなり異なっていることがわかった。韓国では介護労働そのものが職業として認知されておらず、介護は韓国人にとって通常の職業の選択肢ではないとさえ言われている。日本では若者への人気が高いものの大学を卒業して介護職に就く者も少なからずおり、国家資格もあることから職業としての一定の認知はされている。このように介護労働自体の社会的認知が大きく異なっていることがわかった。韓国では職業として認められていないからこそ、無資格でも容易に就ける仕事として外国からの移民が介護労働をしている。韓国における資格である療養保護士は日本の介護福祉士の研修時間や試験と比べるとそれほどハードルは高くなく、フォーマルセクターが実施する長期療養制度の枠内で働く介護労働者には資格が求められる。一方、制度の枠外である療養病院や在宅はインフォーマルセクターとされ、資格は必要ないため外国人介護士の割合が46%に及んでいる。その中でも6割以上が中国の同胞であり、さらにその9割以上が50代以上の女性である。

韓国における外国人介護士のおかれている厳しい現状を改善するためには、多くの課題があるが、まず介護労働そのものの価値が認められるようにしなければならない。キム・ユフィ博士は、日本で導入しているEPAのような特別なプログラムを介護業界に取り入れ、フォーマルセクターが外国人介護士の雇用に乗り出す機会を作ることで、賃金の引上げにつなげることで、既婚の若い移民女性への介護業界参入促進、留学生を社会福祉学に結び付けることで低賃金や劣悪な労働環境の改善を目指すことが今後必要な取り組みだと述べた。共同研究を継続し、互いの経験と知見および研究成果を共有することで更なる改善案を模索することとした。

その他、コロナ禍による影響を受けて予定していたテーマを変更し、ソウル大学日本研究所に所属する研究者等と2つの共同研究を行った。第1に、「コロナ禍が高齢者に与えた影響」について、第2に、「100歳時代、ベビーブーマー世代の孤立と社会参加」についてである。尚、これらの成果は論文として既出版及び出版の予定である。留学期間中の韓国での講演、学会発表、シンポジウムコメンテーター、学会参加等は以下のとおりである。

2021年10月22日～23日、韓国社会福祉共同学会大会にオンライン参加した。

2021年11月4日、吉林大学（中国）の大学院生および学部生に対し「超高齢社会における高齢者の暮らしを考える～日本の場合～」と題してオンライン講座を実施した。

2021年11月27日、ソウル大学、啓明大学（韓国）、関西学院大学の共同研究者とともに東アジア日本研究者協議会第5回国際学会大会にて、「QOLの視点から高齢者の地域生活を考えるー一人100年時代を迎えてー」を発表し、その後討論を行った。

2021年11月30日、ソウル大学日本研究所にて日本専門家招聘セミナー「超高齢社会における高齢者福祉の現状と課題」と題して講演した。

2021年12月6日、ソウル大学日本研究所公開講座「コロナ19危機における日本社会の日常とケア」のなかで韓国と日本のそれぞれの発表についてコメントを行った。

2022年1月5日、韓国の全国災害救護協会が日本支社開設を記念して開催した韓日災害救護セミナーにコメンテーターとして参加した。

以上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間は大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。